

研修農場新聞

(公財) 農林水産振興財団
八王子研修農場
(発行責任者)
農場長 小寺孝治
(無料)

(公財) 東京都農林水産振興財団講堂で6月9日開講式！ 東京農業アカデミー八王子研修農場が正式オープン

新型コロナウイルス感染症防止のため延期されていた東京農業アカデミー八王子研修農場が、六月から本格的にスタートした。

フロンティアに期待

東京農業アカデミーは、新規就農希望者に対し、体系的実践的な栽培技術、農業経営を教育する施設で、卒業後には都内での独立就農を目指す。
東京都と財団が昨年からの開設の準備を進めていたもので、コロナ禍の影響もあり、今回やっと開講にこぎつけた。
理事長から「東京農業を取り巻く情勢は依然として厳しいものがありますが、大消費地東京のおひざ元であり、元気な都市型農業を展開する先輩農家も健在なことなど、東京ならではのアドバンテージもある。
今回のコロナウイルス感染拡大でも、地産地消の大切さ、食の安全・安心が改めて見直されている。
八王子の農場は殆ど何もない状況、まさにフロンティア精神で取り組める場所であり、二年後の皆様の活躍

を非常に楽しみにしている。第一期生五名が就農に向けて道を力強く進み始めた。この日に抱いた想いを胸に2年間、がんばりましょうとエールが贈られた。



研修生の熱き想い

第一期生は、二〇代から五〇代の男女五人、開講式で、研修生から一言ずつ語られた熱い想いを紹介する。
「研修のため練馬から八王

子に越して来た。会社勤めはなく、農業もほとんど素人だが、皆さんのお力をかりながら頑張っていきたい」
飯田秀 (西東京市) 「農業はゼロからのスタートだが、二年後の自分の姿を想像するとわくわくする。前進あるのみで、まだまだ成長し続けたい」
岡西甲樹 (品川区) 「生産技術のほか東京の農業経営について精一杯学び、消費者の皆様が安心して口にできる農産物を安定供給したい。一步一步着実に精進していきたい」
鈴木茜 (三鷹市) 「農業高校を卒業して青果物流通や農家でも働いてきた。自分が独立するうえで、もう一度基礎から学びたい。東京の農業は厳しいところではあるが可能性を秘めている。今までの価値観を覆す斬新な発想で取り組みたい」
武本信雄 (昭島市) 「しっかりと農業技術を身に付けて、東京に農地を見つけて地域に貢献できる百姓を目指したい」等々の思い。

施設等の課題対応

六月は真夏日や梅雨入りで雨の日も多くなってきた。農場ではキャンピング簡易テントでどこにか凌いできたが、高台にあるため風が吹くたびにフレームが曲がり、一か月程度で限界のようだ。第二弾として、農場内に簡易な日除け・雨よけハウスを作ろうと、既に部材を発注しているが、やはりなかなか納品されない。
また、本拠地となる研修棟は、周辺地形との関係から、八王子市との協議が整っておらず未だ活用できない状況にある。研修生等への土気低下が心配されることから、東京都へ課題解決に向けて市との協議を急ぐよう要請を行っているところである。

【6月の農場スナップ】

農場では、雑草が想像以上に多く、除草は日課、このほか果菜類の支柱立て、整枝・せん定、誘引、追肥、農薬散布、防鳥ネットの展開などに努め、キュウリの収穫が始まる(写真)。



【今後の予定】

七月は、いよいよトマトやナス、スイートコーン、ジャガイモなどの収穫が始まる。育てた農作物をいかに販売していくのか、直売所や市場等も視察しながら調整作業や出荷方法について勉強していく予定。
一方では、秋作に向けた畑つくりや種田の準備も行っている。

緊急事態宣言期間

4月、5月の主な出来事・作業

- (4月)
 - ・1日に新メンバー初の顔合わせ、立川庁舎小会議室に仮事務所設置
 - ・2日からは現地確認、圃場の整備開始、夏作物を栽培するために必要な農業資材等の購入等を順次手配、9日には資材置きハウスを設置
 - ・当初4月23日に開講式を準備していたがコロナ禍により延期
 - ・23日には研修生にテキスト類を発送し、課題レポートを配信
 - ・職員は夏作の実技研修に向けた畑づくり(除草、たい肥施用、耕耘等)
- (5月)
 - ・実技研修ができないため、研修生にはSNSで農場の状況を配信
 - ・8日には、トマト、ナス、キュウリを圃場に初の定植
 - ・22日と28日にエダマメ、スイートコーンの播種、トンネル被覆
 - ・第2圃場区画整備、土づくり(ソルゴー播種等)